

子ども時代、自分たちの責任で自由に遊びまわっていた中高年世代に比べ、現在は子どもの成長に欠かせない遊び場が激減、公園には禁止事項が並んでいます。また高齢者の中には子どもの声がうるさいと文句を言う人もいます。文化・人類学者グレン・G・ストリックランド著『人類はいつどこで生まれたか』(1981年 講談社 井坂清訳)には、「人類が動物に近かった頃は、子どもは毎日毎日走り回って遊ぶのが本能であった」とあります。その本能を教室に閉じ込めておさえ、下校すれば塾通いでじっと我慢させているのが現代です。



西川さんの基調講演



“えんたくん”を膝に乗せてフリートーク

今回の基調講演者 [西川正](#)さんからは、“子どものあそびと大人のあそび心が地域を育む”と題してあそび心あふれる実践例を数多く提供して頂きました。地元での事例紹介として、[NPO 法人こだいら自由遊びの会](#)・足立隆子さんから“子どもの自主性を育む自由な遊び”を、[ここぶらっと](#)・竹村雅裕さんから“子ども・子育てにかかわる個人・団体のゆるやかなつながり”をお話して頂きました。アンケート集計の結果、ご参加頂いた多くの方から、「大人のあそび心、あそび場を作ることから子どもへの見方、接し方も変わる気づきを頂いた」「小平の事例と併せて聞いたことが良かった」などの感想をいただき、また参加目的達成度 80~100%と好評でした。残念ながら当日はイベントが重なり、3連休最後の日曜日ということなどもあり、参加人数としては多少目標を下回りました。



お菓子と飲み物でトークも弾みました

この4年間、毎年実行委員を公募し、“ずっと住み続けたい街小平”の課題を取り上げ、どのような切り口で絞っていくか、自由な意見交換とテーマ探しの試行錯誤を繰り返しての事業化でした。今年毎月“連”に進捗状況を報告する記事を見て途中参加され委員になられた方もおられました(毎月開催する実行委員会の企画・推進過程が醍醐味)。市内数少ない中間支援団体としての当会(略称シムネット)の使命は、地域社会の課題とつながりを気づいて頂くきっかけ、協働して考える機会・場を提供することだと思っております。初年度は若い子育て世代(特に父親)のつながり、2年目は観光をテーマに、3年目の昨年は市民と企業との連携を切り口にしました。来年以降どのような事業展開を図るべきか白紙の状態です。遠慮なくご高見をいただければ大変ありがたいです。

“プレーパーク<sup>かじか</sup>恣む手足ほぐれゆき” “遊び声聞こえる町や冬日和” (文責 江口)

## NPO 活動で最近よく聞く用語解説 その1~SDGs~

Sustainable Development Goals (=持続可能な開発目標) の略記。

これまで国連がそれぞれ取り組んできた環境や人権、開発、平和などの課題を全て合流させて作られ、2015年9月に加盟193カ国が全会一致で採択した17分野の目標と具体的な行動の目安となる169のターゲット。基本理念は「誰も置き去りにしない」。SDGsの新しさは、さまざまな課題は実は根っこで互いにつながっていると捉える点。解決に向けて多様なアイデアやアプローチが可能。

【17分野の目標】1. 貧困をなくす 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

\*出典：[朝日新聞 GLOBE \(2017.11.5\)](#)